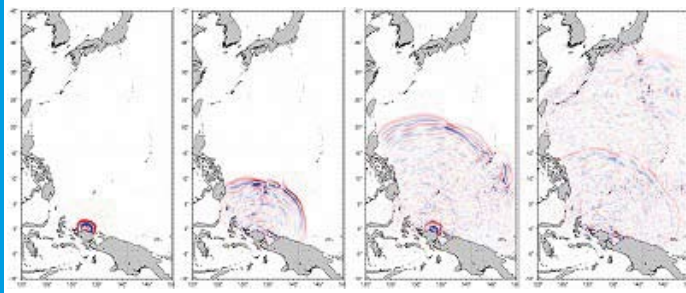


TOPICS



津波シミュレーション
(佐竹健治 教授)

ニューギニア島北部の地震と津波

2009年1月4日、ニューギニア島北部でマグニチュード7.6の地震が発生し、日本にも最大50cmの津波が押し寄せました。シミュレーションの結果、伊豆諸島に沿って津波が大きくなってゆっくり進む様子が分かりました。ゆっくりといっても津波は日本に5時間で届いており、平均時速は約800kmになります。

ASC2008でケーブル式海底地震計を披露

2008年11月24～27日、つくば国際会議場で第7回アジア国際地震学連合総会(ASC2008)が開かれ、地震研究所のブースでは次世代ケーブル式海底地震計の実物を披露しました。11月28日には海外からの招聘者80名が地震研究所を見学し、交流を深めました。

地震研究所所長賞の創設

地震研究所創立記念日の2008年11月13日、第1回地震研究所所長賞の授賞式が開かれ、次の方々に表彰状が贈られました。

- ・ 事務部ワンストップサービスの向上
(庶務チーム：倉光知恵・森有子・米倉和枝・中島純子)
- ・ 地震研究所を効果的に紹介するイラストの作製
(客員研究員: Benjamin Holtzman)
- ・ 海底地震計を用いた広報・普及活動への貢献
(海底地震観測支援グループ: 八木健夫・橋本信一)

要人來訪

- 11月11日 中国共産党中央党校 李書磊教授 ほか4名
- 12月2日 ロシア非常事態省自然災害対策センター副所長 DYSHEKOV Ruslan氏 ほか3名
- 12月8日 中国清華大学学長 顧秉林教授 ほか5名
- 12月12日 国土交通省砂防部長 中野泰雄氏 ほか2名
- 12月18日 中国地震局防災科技学院長 薄景山教授

INFORMATION

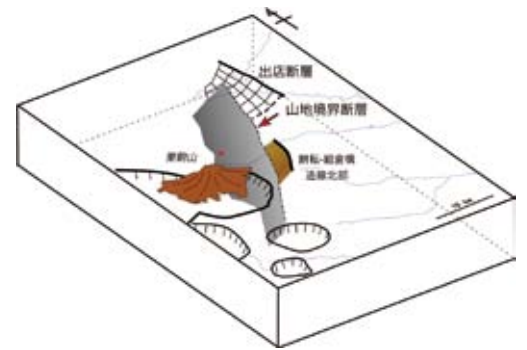
共同利用

地震研究所は全国共同利用研究所として、国内の研究者を対象に共同利用・研究会などの制度を設け、地震・火山現象の解明と予知、それらによる災害の防止と軽減に関する研究を推進しています(平成20年度予算25,863千円)。

- 平成21年度共同利用課題採択通知：2月末
- 平成20年度報告書の提出：4月末締切
- 平成22年度特定共同研究課題登録：7月末締切
- 平成22年度共同利用・客員教員募集：9月開始、11月中旬締切
- 施設・実験装置、データ・資料などの利用：随時受付

岩手・宮城内陸地震の震源断層を解明

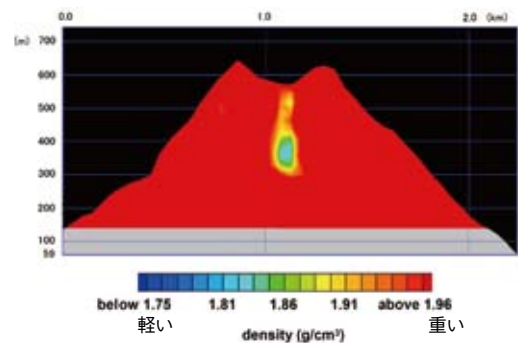
2008年6月に岩手・宮城内陸地震(M7.2)を引き起こした震源断層についての調査結果が12月11日、地震研究所・地球科学総合研究所・岩手大学・東北大学の研究グループより、政府の地震調査委員会に報告されました。余震観測や反射法地震探査による丹念な現地調査により、出店断層の西方に位置する未知の山地境界断層が活動したと推定され、国土院が地殻変動データから求めた断層モデルとも調和的です。



震源域の地殻構造(佐藤比呂志 教授)

宇宙線を用いて薩摩硫黄島の透視に成功

田中宏幸特任助教らの研究グループが、宇宙から降り注ぐ素粒子の一つであるミュオンを利用して、薩摩硫黄島火山(鹿児島県)の透視に成功しました。光電子倍增管を用いた新開発の検出装置で得られた1ヶ月分のデータを処理して火山内部の密度を調べたところ、マグマに含まれるガスが発泡して対流している個所や、噴火のときにマグマが通る「火道」が確認されました。噴火予知への適用が期待されます。論文は地球物理学の専門誌『Geophysical Research Letters』(2009年1月6日発行)に掲載されました。



密度 (g/cm³)
軽い 重い

イベント

- 地震研究所特別公開講義・展示「関東大震災から85年。首都直下地震に備えて」(東京大学農学部弥生講堂)2009年2月8日
- 防災研究フォーラム第7回シンポジウム「アジア型巨大災害に挑む」(京都大学宇治キャンパス木質ホール)2009年3月7日
- 最終講義(島崎邦彦教授、個為成准教授)2009年3月27日午後

本所永遠の使命とする所は
地震に関する諸現象の科学的研究と
直接又は間接に地震に起因する災害の予防並に
軽減方策の探究とである(寺田寅彦)

東京大学地震研究所 ニュースレターPlus 第5号

発行日 2009年1月31日

発行者
東京大学 地震研究所

編集者
地震研究所 広報委員会
(責任者:辻宏道、
担当:勝俣啓・前野深)

制作協力
フォトンクリエイト
(デザイン:酒井デザイン室)

問い合わせ先
〒113-0032
東京都文京区弥生1-1-1
東京大学 地震研究所
アウトリーチ推進室

Eメール
outreach@eri.u-tokyo.ac.jp

ホームページ
http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/index-j.html